

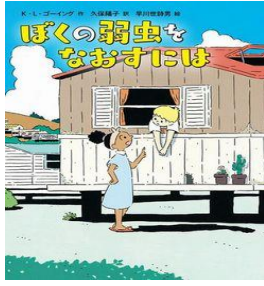




5年生・6年生 課題図書 (感想文)

かだいとしょ かんそうぶん



| 本の題名        | 本の表紙  | 作者・出版社   | あらすじ  |
|-------------|---|--|---|
| 『リンゴの木を植えて』 |    | 大谷美和子／作<br>白石ゆか／絵<br><br>出版社：ポプラ社                | <p>みずほは小学五年生。二世帯住宅で暮らす大好きな祖父にがんの再発がわかった。しかし、祖父は「積極的な治療」はおこなわないという。なぜ？みずほはどうしても受け入れられません。</p> <p>がんを身体にかかえながらも、大好きな絵を描き、庭仕事をして毎日をのびやかに暮らす祖父。やがて祖父や家族と語り合うあたたかな時間のなかで、「おじいちゃんの生き方」を見つめ、「人間が生きること」そして「死ぬということ」を考える物語です。おじいちゃんと過ごした日々——それは、とっておきの時間。</p>  |
| 『風を送れよ』     |    | 熊谷千世子／作<br>くまおり純／絵<br><br>出版社：小峰書店               | <p>長野県南部、天竜川上流域を中心に伝わり、国の無形文化財にも指定されている「コト八日行事」。優斗たちが暮らす地区では、二日間わたるコト八日行事のすべてが子どもたちの手にまかされ、行われます。コロナ禍で行事の開催自体があやぶまれる中、はたして優斗と仲間たちは、家々にすくう疫病神を祓い、無事地区境まで送ることができるのでしょうか？</p> <p>さまざまな困難に立ち向かい、自らの責任を懸命に果たそうとする子どもたちの姿を鮮やかに描く成長の物語です。</p>  |
| 『ぼくの弱虫をなめろ』 |   | K・L・ゴーイング／作<br>久保陽子／訳<br>早川世詩男／絵<br><br>出版社：徳間書店 | <p>小学校4年のゲイブリエルには、こわいものがたくさんあります。例えば、クモ、いじめっ子の上級生、大きなトラック…。でも、何よりこわいのは、5年生に進級すること。(いやな上級生と同じ校舎になるから) ぜったいに5年生にはならない、と決めました。親友の女の子フリータは、これに大反対！ゲイブリエルの弱虫をなめろ作戦を考え、夏休みにふたりで取り組みますが、途中で——。1976年アメリカ・ジョージア州を舞台に、偏見や人種差別の問題にふれつつ、苦手を克服する子どもたちの成長を描いた、心にひびく物語です。</p>                                |
| 『捨てるパンの挑戦』  |  | 井出留美／著<br><br>出版社：あかね書房                          |  <p>捨てるパン屋として評価される田村陽至さんの思想を、食品ロスの専門家として数多くの受賞を誇り、食品ロス削減推進法成立の原動力となった井出留美さんが本にしました。田村さんのモンゴル滞在の経験や、ヨーロッパへのパン修行の旅など、美しい自然風景と感動的なエピソードを交えながら、捨てるパン屋になるまでの葛藤を通じて、自然への深い愛情と、食品ロスなき未来への希望を描いたノンフィクションの一冊です。</p> |